

中小、忍び寄る資金ショート



ECのミカタは通常の半額で東京・恵比寿のオフィスに移転した

成長を続ける中小企業に忍び寄る資金ショートのリスク。IT（情報技術）を駆使した独自の事業モデルで、その資金繰りを支えるスタートアップ企業のサービスが注目を集めている。当座の少額資金を提供することで短期の資金繰りに悩む中小企業のニーズに答えている。

スタートアップが手助け

日商保 オフィス敷金半額に トランザックス 売掛債権早く現金化

- 中小企業の資金問題を解決するスタートアップが増えている
- 日本商業不動産保証（保証金半額くん）
 - 入居時の敷金を半額保証
 - Tranzax（サブライチェーンファイナンス）
 - 電子債権で売掛債権を早期に現金化
 - CAMPFIRE（CAMPFIREレンディング）
 - クラウドファンディングの実績を基に融資
 - freee（freeeカード）
 - 中小事業者向けクレジットカード
 - リンクス（レンタルCFO）
 - 資金調達コンサルティング

JR恵比寿駅から徒歩5分のオフィスビル。情報サイト運営のECのミカタ（東京・渋谷）は2016年、予定していた半分の移転費用で入居した。引越し前は新オフィスが倍以上広くなり、家賃が月120万円程度とがさむに悩んでいた。小林亮社長は「敷金を思いがけず節約で

き、我慢していた内装費に回せた」と笑う。同社が使ったのが日本商業不動産保証（東京・港）の不動産保証サービス「保証金半額くん」だ。通常は月額賃料の8〜12カ月分かかるオフィス入居時の敷金が半額で済む。日商保は主に入居企業から毎年、減額分の5〜10%を手数料として徴収する。

日商保の豊岡順也社長は「都内の物件は空室が深刻。他と差をつけるには敷金の割引くらいしかない」と指摘する。不動産

日商保の豊岡順也社長は「都内の物件は空室が深刻。他と差をつけるには敷金の割引くらいしかない」と指摘する。不動産

「我儘しては内装費に回せた」と笑う。同社が使ったのが日本商業不動産保証（東京・港）の不動産保証サービス「保証金半額くん」だ。通常は月額賃料の8〜12

トランザックスが設立した支払い代行の特別目的会社を通じて、発注元の大手と下請け企業との間に入り、割り引いた電子債権の譲渡を受け、それを大手企業に再び買い

取ってもらった。複雑な流れの資金取引をフィンテックが可能にした。建材流通会社の和以美（東京・荒川）田中幸治社長は「レオパレス21の取引先だ。トランザックスのサービスを利用することで、レオパレス21に対する売掛債権が発生してから20日後に現金に換えられるようになった。これまでは70日後の振り

取ってもらった。複雑な流れの資金取引をフィンテックが可能にした。建材流通会社の和以美（東京・荒川）田中幸治社長は「レオパレス21の取引先だ。トランザックスのサービスを利用することで、レオパレス21

黒字倒産の原因は売掛金の回収が遅れることによる資金繰りの悪化だけ

会社は製品やサービスが売れ始めると一見事業が軌道に乗ったように見えるが、事業が安定するまでは特に毎月の資金繰りに注意を払う必要がある。東京商工リサーチ（東京・千代田）の調査によ

込みを持つしかなかった。和以美特設部PB課長の大島淳氏は「早く現金化した分、建材購入などに回せる」と喜ぶ。「数字でなく、周りからの評価で会社を支援したい」。クラウドファンディング（CFD）のサイトを手がけるCAMPFIRE（東京・渋谷、家入一真社長）の中田雅人

も赤字だったという例は多い」と指摘する。2017年に自己破産した電子基板設計のナルオ電子（大阪市）は大手メーカーなどを顧客に持つ。最終決算は医療機器

ではない。過剰在庫や資本金不足も命取りとなる。中小企業基盤整備機構の中小企業再生支援機構の中小企業再生支援全額本部の大庭正統統括マネージャーは「損益計算書で黒字で

い。融資事業「CAMPFIREレンディング」を開始した。融資はCFDで目標額を達成した企業向け。最大100万円を年率8〜15%で貸す。衣料品ブランドのオールユアーズ（東京・世田谷）は7月、CFDで調達目標額の約20倍の資金を集めたことを群

上げるとクレジットカードを出しているほか、起業家支援のリンクス。同社は「レンタルCFO」を派遣し、資金調達コンサルティングを手がける。

は日々登場している。CFDは中小企業特有のニーズに答えるサービスソフトのfreee（フリー、東京・品川）佐々木大輔社長が一定の条件を満たした自社の顧客の与信限度額を引き

関連需要から売上高10億円と前年の1.7倍程度で黒字だった。一方で収益面は採算維持程度で、在庫負担も重かった。急激な業績拡大に収益が伴わず、決済資金調達のめどが立たず倒産した。

黒字倒産、昨年は過半